様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 １９ 日現在

機関番号：３２２０３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2018
課題番号：１５Ｋ０２６９０

研究課題名（和文）逐次通訳アプローチの汎用性追求とその継続的研究基盤の確立

研究課題名（英文）The Consecutive Interpreting Approach, the pursuit and development of its versatility and establishment of research base

研究代表者
飯塚　秀樹（Iizuka, Hideki）

獨協医科大学・医学部・准教授

研究者番号：９０６１７４６６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円

研究成果の概要（和文）：逐次通訳アプローチは，シャドーイングとリプロダクションに基づく音声中心の英語教育法で，日本人英語学習者のリスニングとスピーキング力の向上を目的としている。日本の英語学習環境はEFL（English as a Foreign Language）環境とも呼ばれ，そこには英語習得に不可欠なexposure（英語への露出）やuse（英語使用）が決定的に不足している。その不足分を科学的に補い，既存の教室・学習環境下でも機能する方法が本アプローチと言える。商業高校での実践研究の結果，全商英検１級の合格者が10～20倍増となり，また本アプローチによりSTEP英検1級の合格者も数多く輩出するに至った。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究では，実際の教育現場で役立って初めて研究活動は完成すると捉え，様々な教育現場でのデモ授業や招待講演を積極的に行った。研究終了時点においてそれらの累計は41本を数え，その中には文科省講演ELEC英語教育研修会も含まれる。このような活動から高等学校の先生方と研究基盤を確立することができ，全商英検合格者輩出など，先に記した結果を導き出すことができた。本研究からの知見は広く社会に還元できたと感じる。

研究成果の概要（英文）：The Consecutive Interpreting Approach is a sound-based English teaching model, the basis of which is comprised of shadowing and reproduction. The approach is intended to cultivate listening and speaking skills of Japanese English learners. What it does is to scientifically compensate for the lack of exposure to English and limited opportunities to use it, both crucial elements for foreign language acquisition. It improves Japanese students' English verbal communication skills without the necessity to radically change the classroom environment to which Japanese students are typically exposed. The application of this approach to English classes in commercial high schools has seen a significant increase in the number of students who have passed the 1st grade Zensho English exam. It has also been successfully adopted for students taking the STEP 1st grade exam. These results clearly demonstrate a positive outcome for Japanese students who have benefited from this approach.

研究分野：英語指導法研究

キーワード：シャドーイング　プロソディー　リプロダクション　逐次通訳　英語教育

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９、ＣＫ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

研究者は高等学校の英語科教諭を過去 17 年間務めた経験を持つが、Super English Language High School など、英語政策からの研究成果が末端の教室現場にまで十分に浸透していない現実を感じていた。その理由は研究環境と日々の授業環境との乖離にあると考えている。たとえ優れた成果を生み出した研究であっても、毎日の授業でそれが展開できなければ、学生の英語コミュニケーション力は向上しない。日本は外国語として英語を学ぶ EFL(English as a Foreign Language) 環境下にあり、そこには外国語獲得に必須となる exposure（その言葉に接すること）や use(その言葉を使用すること)などの要素が不足する。前科研費研究ではそれらを科学的に補いつつ、学生の英語コミュニケーション力を高める方法として「逐次通訳アプローチ」を構築したが、本研究では、そのアプローチを様々な教育機関で展開し、その汎用性を高めることを目的とした。その汎用性が確立されれば Super English Language High School など特別な環境を持つことなく、既存の学習環境の中でも広く日本人学生の英語コミュニケーション力の底上げができるであろうと考え、研究に着手した。

２．研究の目的

本研究では、研究者による平成 24～26 年度基盤研究(C)「逐次通訳アプローチによる外国語指導法の効果とその汎用性の確立に向けた基礎的研究」(課題番号 24520642)の成果を受け、以下の 3 項目を実現することとした。

（１）本アプローチを中学校・高等学校・大学などの異なる環境下で広範囲に実践し、既存の学習環境（教室やテキスト）を変えることなく、対象者の verbal communication skills（聴解力・口頭表現力）を効率良く高めるための具体的方略を確立する。

（２）外部検定試験等を用いてＩについての実証を試み、本アプローチの汎用性について考察する。

（３）以上の結果を講演などの機会をとおして参加者に伝え、指導法を模索する語学教師との継続的研究基盤を確立する。

３．研究の方法

（１）本アプローチに基づく授業を本学医学部・看護学部・看護専門学校で展開し，その効果を高めるための研究を継続する。

（２）上記の成果をもとに、デモ授業を高等学校等で実践し、それらの活動から得られたデータをもとに本アプローチの汎用性を高めるための方略を考察する。尚、本研究では定期的に英語検定試験を受験させている群馬県立高崎商業高等学校及び茨城県立水戸商業高等学校を研究対象校とした。

（３）上記活動の結果を論文として発表すると同時に、文科省後援 ELEC 英語教育研修会や学会等の機会で参加者に伝え、本研究の成果を社会に還元すると共に、参加者との継続的研究基盤を確立する。

４．研究成果

主な研究成果としては、上記群馬県立高崎商業高校において、全商英検１級の合格者を介入後倍増させ、最終的に合計 31 名が当該検定試験に合格するに至った。この結果については、飯塚(2017)「逐次通訳アプローチに基づく英語検定試験対策の試みとその考察」. The LCA Journal, 31, pp23-35 に論文としてまとめ発表した。また茨城県立水戸商業高校においても、本アプローチに基づく実践授業を継続した結果、全商英検１級に 37 名、STEP 英検 2 級に 21 名、STEP 英検準 2 級に 64 名（すべて 2 年生）が合格するなど顕著な結果を残すことができた。この実践研究も、飯塚・野田（2017)「逐次通訳アプローチに基づく英語教育とその効果・汎用性追求に関する考察」.獨協医科大学基本医学年報、第 6 号、pp59-71.に論文としてまとめ発表した。

またこれらの成果発表として、学会発表や招待講演を精力的に実施した。主なものは以下のとおりとなる。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 3 件）

・Iizuka, H., Lefor, K, A. (2018). Does the Consecutive Interpreting Approach enhance medical English communication skills of Japanese-speaking students? International Journal of Medical Education. (9) 101-107. （査読あり）

・飯塚秀樹. (2017). 逐次通訳アプローチに基づく英語検定試験対策の試みとその考察. LCA ジャーナル. 31 23-35. （査読あり）

・飯塚秀樹・野田知子. (2017). A Discussion of English Language Education Based on the Consecutive Interpreting Approach: Analysing Effectiveness and Assessing Versatility. 獨協医科大学基本医学年報. (6) 59-71.（査読なし）

〔学会発表〕（計 13 件）
・ 飯塚秀樹.「実践英語を飛躍的に習得するために！」古河ライオンズクラブ青少年育成事業. 青少年育成フォーラム 2019．2019 年 3 月 16 日.
・飯塚秀樹．平成３０年度茨高教研商業部学習合宿「めざせ！スペシャリスト」．平成３０年度茨高教研商業部学習合宿．2018 年 8 月 16 日.
・飯塚秀樹.「英語によるアウトプットを効率良く高めるための指導法」.文部科学省後援 ELEC 夏期英語教育研修会.2018 年 8 月 10 日.
・飯塚秀樹.「音声を重視した中学校英語授業の効果的な指導法」.千葉県印旛地区教育研究会外国語活動研究部研修会.2018 年 7 月 26 日.
・飯塚秀樹.「逐次通訳法を応用した英語検定試験対策」.茨城県立水戸商業高等学校出前授業 2018 年 3 月 15 日.
・飯塚秀樹.「音声中心の英語学習法」.茨城県古河市立古河第三中学校英語授業研究会．2018 年 2 月 8 日.
・飯塚秀樹.「小・中学校英語教育へのご提言　既存の学習環境下で、スピーキング及びリスニング力を効率良く向上させるために」．茨城県古河市教育委員会英語特区事業.2017 年 6 月 22 日.
・ 飯塚秀樹，長橋正俊．「外部検定試験における逐次通訳アプローチの試みとその考察」第 47 回中部地区英語教育学会長野研究大会．2017 年 6 月 25 日.
・飯塚秀樹.「逐次通訳アプローチに基づくスピーキングおよびリスニング力向上を目指した英語指導」．一人一人が輝く学校作り推進事業．2017 年 6 月 1 日.
・飯塚秀樹.「全商英検１級直前対策」.ぐんま国際教育財団語学教育助成事業．2016 年 12 月 16 日.
・飯塚秀樹.「全商英検１級合格者を増やすための技能統合指導の実践」.ぐんま国際教育財団語学教育助成事業.2016 年 12 月 2 日.
・飯塚秀樹.「全商英検に向けての対策法、英語を学習する意義」.ぐんま国際教育財団語学教育助成事業．2016 年 10 月 21 日.
・飯塚秀樹.「第 56 回全商英検結果と考察　次回の対策法について」.ぐんま国際教育財団語学教育助成事業．2016 年 9 月 16 日.

〔図書〕（計　　件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
　飯塚秀樹研究室 hiizuka.com

６．研究組織

(1)研究分担者

(2)研究協力者
研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。